

企業との連携協働 実践事例紹介



はじめに

NPOが得意分野を生かして企業と連携協働することで、活動の幅を広げ、新たなネットワークを構築することができます。企業と出会う絶好の機会となっているのが「彩の国ビジネスアリーナ」です。今回は「彩の国ビジネスアリーナ2016」に出展したNPOと企業とのマッチングが成立し、連携協働の実践につながった事例について紹介します。

◆企業との連携協働

実施主体：特定非営利活動法人
まちづくりサポートネット元気な入間
内容：加治丘陵の里山を活用した新入社員研修
連携協働企業：積水ハウス株式会社埼玉営業本部

特定非営利活動法人まちづくりサポートネット元気な入間（以下、まちサポ）は、市民と行政との協働によるまちづくりを発展させていくことで入間市を盛り上げ、「元気な入間」の実現を目指して活動しています。多くの市民に参加してもらい、市民活動団体のまちづくり力を強めていくために世代を超えて交流するイベントやコミュニティづくりの場の提供などを行っています。



入間市の地域活性化に向けた課題は、加治丘陵の里山や入間川・霞川、休耕農地、まちの文化財といった地域資源を再生し、活用することであるとまちサポでは考えています。そこで、まちサポではこれらの課題に対して様々な主体がみんなで解決に取り組むために、“まちサポテーブル（円卓会議）”を呼びかけました。その結果、企業や金融機関、大学、県の地域振興センター等が地域課題解決

の担い手や応援団として名乗りを上げ、ともに事務局を設立することができました。そして、人・まち・自然を元気にする仕組みとして開始したのが「IRUMA元気商会事業」です。コミュニティビジネスの展開、新たなビジネスモデルの創出、継続的な事業展開を目指して取り組んでいます。

(1)企業との連携協働へのチャレンジ

企業と積極的にかかわることで、NPO法人としての経済的基盤を強化したい。また、スタッフの意識向上やスキルアップを図り組織体制を強化したい。そんな思いで、平成28年1月末に開催された「彩の国ビジネスアリーナ2016」の県共助社会づくり課ブースに出展し、企業との連携協働にチャレンジすることにしました。出展に向けて、まちサポのスタッフ同士で十分に協議し、里山管理、川遊び、体験農業等の中から加治丘陵の魅力を生かした里山管理・体験プログラムを企画しました。スタッフの中には不安の声もありましたが、協議を繰り返す中で、モチベーションを上げることができました。出展当日は、自分たちのブースはもちろん、会場内の企業ブースへ出向き、チラシを配布して企画内容のPRを行いました。イベント終了後、企業から何件か相談をいただき、その中から積水ハウス株式会社埼玉営業本部（以下、積水ハウス）との連携協働が決まり、同社の新入社員研修をまちサポの「加治丘陵里山管理・体験プログラム」で行うことになりました。



▶加治丘陵の様子

(2)プログラムの実現に向けて

積水ハウスとの打ち合わせを進めていく中で、「若い世代を育てたい」という共通の想いを確認しながら、事業企画をブラッシュアップしました。2月～4月の限られた短期間で、現地視察やヒアリング等を含めて3回の打ち合わせを重ね、その間に交わしたメールや電話は30回以上に上りました。お互いの想いが1つの形となり、「IRUMA元気商会事業」の初陣を飾るにふさわしい事業となりました。

【概要】

期日 平成28年4月21日(木)～22日(金)
場所 加治丘陵(入間市公有地)
入間市農村環境改善センター

プログラム

<1日目>

午前：集合、受付、下草刈り体験、森林ウォーキング、展望台見学

午後：森の健康診断(説明)

山仕事の広場・バイオトイレの見学
講義

- ・里山保全・再生事例(まちサポ)
- ・5本の樹(積水ハウス本社)
- ・森林を軸として中山間地で生きるために(株)リトル・トリー

<2日目>

午前：森の健康診断(体験)

山飯・そば打ち体験

午後：ワークショップ

成果発表

【下草刈りの体験】

森の中で5つのグループに分かれて各エリアの下草刈りを行いました。当日参加した新入社員23名の中には、鎌を初めて持つ人もいたなど、個々の生活経験には差がありましたが、互いに教えたり、教わったりしながら全員が協力してスムーズに進めることができました。グループの共同作業を通して、新入社員同士の交流が自然発生し、コミュニケーションが図られ、連帯感を高める機会になりました。



【森の健康診断】

調査地の設定、人工林の植生調査(植栽木以外の調査)、混み具合調査(植栽木の調査)の3種類の説明を受け、実際に新入社員が協力して行いました。森が健康か否かを診断することは初めてのことでしたが、戸惑いながらも積極的に参加していました。



【里山についての講義】

新入社員はまちサポの木内勝司代表から里山についての講義を受け、理解を深めました。

里山とはどういうところか(里山の環境はひとつながりの暮らしの場、人が育んできた里山の姿、どうして里山が変貌したか…)



また、山梨県の道志村で地域おこし協力隊として活躍した大野航輔氏から、森林管理やバイオマス燃料等(薪ボイラーによる道志の湯の地域経済効果)の説明を受けました。

【5本の樹についての講義】

積水ハウス株式会社本社担当者の講義により、自分が入社した会社について様々な視点を身につけました。

5本の樹とは…

積水ハウスグループが考えるまちの里山づくり（3本は鳥のために、2本は蝶のために…住宅の庭に5本の樹を植えてまち全体に里山ネットワークをつくろう）



新入社員は一つ一つの内容をつなぎ合わせることで、全体を捉えることができ、納得の表情を浮かべていました。

【山飯・そば打ち体験】

入間の土地で採れた食材を使っての山飯・そば打ち体験をすることで、地産地消の大切さを実感し、調理を通して作業の組み立て方や調理操作等を学びました。お茶の新芽のてんぷらはこの土地、この時期にしか味わえない珍味です。自分の手で打ったそばは格別の味で、てんぷらとの相性も抜群でした。“食”もまた人と人をつなぐ架け橋だと感じることができました。



【ワークショップ・成果発表】

プログラムのまとめとして行われたワークショップと成果発表は新入社員の成長を感じられる内容でした。たった2日間の研修でしたが、新入社員が自然や地域の産物について考えるとともに、今回のプログラムを通して、自分が入社した企業の理念に対する理解を深める機会となりました。5つのグループ

の発表ではプレゼンテーション力が試されました。2日間のプログラムで学んだことや考えたこと、これから必要になることなどを丁寧にまとめ、話す順番や内容を工夫して、分かりやすく説明していました。発表を通じて会社に対する思いを共有するとともに、同期の仲間との絆を確認していただけたものと思います。



(3)企業との連携協働を通じて

講師の調整や市の関係課との連絡調整、関係施設の準備等、色々大変でした。様々な団体と連携することで、まちサポだけでは足りない部分が補えて、とても充実したプログラムを作り上げることができました。しかし、早くからの準備が必要なことや周囲の理解と協力が必要なこと、行政との連携等に課題が残りました。

研修終了後、積水ハウスの新入社員研修担当者から「大変、手応えのある研修になりました」との評価をいただき、スタッフ一同、安堵するとともに自信を得ることができました。また、新入社員の「里山と5本の樹計画との関係が分かった」「身体を動かす研修内容が良かった」「チームで行動することで仲間意識が生まれた」などの感想から、事業を実施したまちサポのスタッフ自身が元気をもらいました。今回の研修事業を通じて、積水ハウスの参加者に加治丘陵の魅力を伝える事ができたと思います。新入社員の方々が、研修で学んだことを仕事に生かしてくれることを期待しています。今後も、自然と触れ合うことでリフレッシュしてほしいです。

(4)これからの活動

今後も、まちサポは「IRUMA元気商会事業」を通じて、企業関連の研修事業を積極的に進めていきたいと考えています。現在は、第二弾として「めだかの学校プロジェクト(ふるさとの水と緑を活用した親子体験教室事業)」を展開しています。来年度以降、入間の自然を題材にした企画を切り口にして企業と連携協働していきたいと考えています。

まちサポ入間
<http://www.machisapo.com/>

おわりに

NPOが企業と協働して事業や地域貢献活動を進めていくためには、当然のことですが、まず、会うことが必要です。県共助社会づくり課では、イベントやセミナーを通じて両者が会う場を創出していきます。皆さんも是非、参加してみませんか?きっと新たな発見があり、視野が広がると思います。新たな出会いから、新しいネットワークを作り、お互いに絆を深めて行きましょう。

(埼玉県共助社会づくり課)

埼玉県からのお知らせ

市民活動団体等の交流の場を開催!

県は、地域課題の解決に取り組む人が集まって情報交換できる場を創出します。企業の方にも参加していただき、お互いの視点を学ぶ場にもしたいと考えています。当日は、有識者の講演、分科会での意見交換のほか、お楽しみのプログラムを用意しています。共助活動を実践し、新たな出会いやつながりを求めている県民の皆様の参加をお待ちしています。

開催日時

平成28年

定員
100名程度

参加
無料



11月7日(月)
13:30~16:40 (受付開始13:15)

会場

さいたま市浦和コミュニティセンター
 浦和PARCO・コムナーレ9階 第15集会室
 さいたま市浦和区東高砂町11-1

地域の
共助仕掛人が

絡みます!



“ママ”も“シニア”も、みんな共助仕掛人!!

~1人+1人=2人じゃない? 「プロボノ×共助」で大開眼!~

【内容】 *変更になる場合があります。

講演：講師 聖学院大学教授・埼玉県共助社会づくり推進委員会委員長 大高 研道氏
 演題 「いま、なぜ“共助”か？」

~つながりを生み出すプロフェッショナル市民が求められる時代に~

- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 分科会：①こども食堂・地域食堂 | ②コミュニティづくりと地域安全 |
| ③企業との協働・連携にチャレンジする | ④ファンづくりを目指した情報発信
(ホームページ・SNSの活用) |